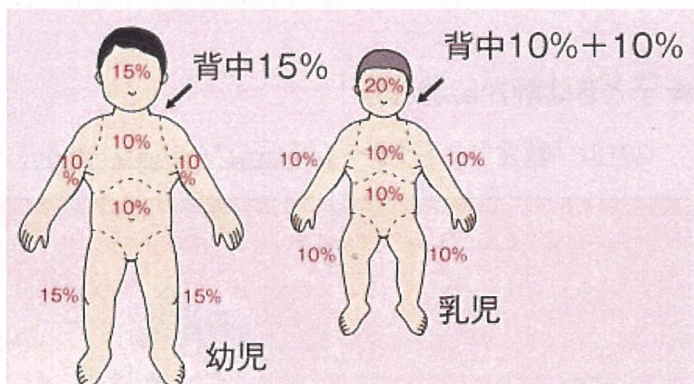


熱傷

表面積の10～15%以上の広さのやけどで重症

◆手当◆

- 冷水で痛みが取れるまで冷やす
- 衣類はそのままにして冷やす
- 水泡をつぶさない
- 低体温に注意
- 軟膏・油・消毒薬は塗らない
- 広範囲の熱傷や、顔や手など熱傷の部位などによっては特殊な治療が必要となる。⇒ 119番通報



熱中症

子どもは1Kgあたりの体表面積が成人に比べ大きく体温調節機能も未熟なため、外気温の影響を受けやすいので、予防が大切です。

◆事故の予防◆

- 室温の調節に気を配る。
- 吸湿性、通気性のよい衣服を着用させる。
- こまめな水分補給
- 炎天下での外出を避ける。やむを得ない場合は、必ず帽子をかぶらせる。
- ベビーカーは輻射熱の影響を受けやすいので、気を付ける。
- 子どもを、炎天下、自動車の中、暑い室内などに残さないようにする。



◆手当◆

- できるだけ早く、涼しい場所へ避難
- 厚い服は脱がせて、体からの熱を放散する
- 反応があって、吐き気や嘔吐などがなければ、冷たい水や塩分、子ども用スポーツ飲料などを飲ませます。
- 冷たい濡れタオルで、胸や腹など体を覆い、うちわや扇風機などで扇ぐことにより、熱の放散を助けます。
氷嚢などがあれば、頸部、腋下、鼠径部など大きな血管がある場所を冷やす。

直ちに119番通報

- 水分が補給できない、症状に改善が見られない、様子がおかしい、全身のけいれんがあるときは、ためらわず119番通報！

日赤群馬県支部では、いのちと健康を守る講習会を実施しています。



お問い合わせ

日本赤十字社群馬県支部
〒371-0833 前橋市光が丘町32-10
Tel 027-254-3636 講習係